

2019 J2 ■順位表 ■暫定：第33節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	柏	66p	+27	53	26	A●	H●
2	山形	58p	+17	44	27	H○	
3	横浜FC	57p	+20	53	33	A●	
4	水戸	57p	+19	43	24	H●	A●
5	大宮	57p	+14	44	30	A●	H△
6	京都	55p	+11	47	36	H△	A●
7	岡山	53p	+2	42	40	H○	A●
8	甲府	51p	+16	49	33	A●	
9	徳島	51p	+7	45	38	A●	
10	金沢	50p	+12	44	32	H●	A●
11	長崎	50p	+5	47	42	H●	A○
12	東京V	45p	-1	44	45	H●	
13	新潟	43p	+6	51	45	H●	
14	山口	36p	-14	44	58	A●	
15	琉球	36p	-18	47	65	H○	A○
16	愛媛	35p	-8	38	46	A●	
17	千葉	35p	-12	39	51	A●	H△
18	福岡	35p	-13	33	46	A○	H●
19	町田	33p	-19	30	49	H●	
*20	鹿児島	30p	-23	37	60	H△	
21	栃木	28p	-19	25	44	A△	H△
*22	岐阜	24p	-29	27	56	---	---

注)*は消化試合が1足りない

次回HomeGame

第35節 vs.レノファ山口

10/6 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集 !!

gidaidohri@gmail.com

today's guest : **横浜FC**

2018 J2 21勝13分8敗 勝ち点76: 3位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2019/03/23 J2 - 5節@ニッパツ	FC岐阜	横浜FC
横浜FC 2-0 岐阜	2019/09/22 J2 - 33節@Kスタ 水戸 1-0 岐阜	2019/09/22 J2 - 33節@町田 町田 0-0 横浜FC
	2019/09/14 J2 - 32節@Cスタ 岡山 2-0 岐阜	2019/09/15 J2 - 32節@ニッパツ 横浜FC 0-0 大宮
	2019/09/07 J2 - 31節@長良川 岐阜 0-0 栃木	2019/09/07 J2 - 31節@ニッパツ 横浜FC 3-2 甲府

●2019年シーズン終盤戦に入っても、苦しい状況が続くFC岐阜。9/7(土)第31節・ホーム栃木戦は、“裏・天王山”の直接対決。両チームとも勝利が絶対に必要な試合だったが、両チームとも決定機を決められず、0-0での引き分け。勝ち点1を分け合う結果に終わってしまった。続く9/14(土)第32節・アウェイ岡山戦は、試合序盤は岐阜のペースで進むが、一瞬の隙を突かれて失点。後半も岐阜が何度か決定機を得るも決めきれず、逆に岡山にカウンターを浴びて2失点。結局、0-2で敗戦という結果になった。そしてアウェイ連戦となった9/22(日)第33節・水戸戦は、強風の吹くピッチと水戸の激しいプレスに苦しみ、自分たちのミスで失点。その後も水戸に圧倒されるも追加点は許さなかったが、0-1で敗戦となった。

これで3試合未勝利かつ2連敗。最も大きな問題は、3試合とも無得点、シュート数も1桁台という少なさだろう。もちろん無失点で抑えれば勝ち点1は手に入るが、勝たなければならない状況で、選手間でフィニッシュに至るまでの戦術認識にズレが生じている様にも思われる。この点を早急に改善し、また積極的にシュートを撃つ勇気ある意識を全員が再確認する必要があるだろう。

そして、この3試合で勝ち点を1しか積み上げることが出来なかったFC岐阜の順位は最下位のまま。21位・栃木が20位・鹿児島との直接対決で勝利したため、岐阜との勝ち点差は4に開いてしまった。しかし、我々が目標とすべきJ2残留圏(=20位)までの勝ち点差は6に縮まっている。残りは10試合、まだ、諦めるような段階ではない。選手もスタッフも、そして我々サポーターも、気持ちを引き締めて、残り10試合、毎試合を全力で戦い抜いて、勝利を、そして勝ち点を積み重ねていくことで、この逆境を抜け出す努力をしていこう。また、9/13(金)には#40横山知伸の加入が発表された。ベテランDFの加入により、守備の改善に期待したい。

さて、今節の対戦相手は横浜FCだ。昨季は3位、プレーオフで敗れたが、今季はJ1昇格を目標にタヴァレス監督2年目体制でスタート。しかし、下位低迷のため5月にタヴァレス監督が解任され、下平隆宏ヘッドコーチが後任監督になると、なんと第19節から現在まで15試合リーグ戦無敗。現在は3位でJ1昇格を視野に入れているチームだ。直近2試合は、大宮・町田を相手にスコアレスドローの結果に終わっているが、今節は修正した上で、ここ長良川に乗り込んでくるだろう。厳しい相手であることに間違いない。横浜FCで最も注意しなくてはならない選手は、現在16ゴールのCF#10イバだろう。この大型ワントップに仕事をさせないように抑え込み、そして彼へボールを供給させないことが、岐阜の勝利には必要条件だ。そのためには、トップ下の#40レアンドロ・ドミンゲスにも注意が必要だし、その左右からスピードで突破してくる#27中山克広と#37松尾佑介の両アタッカーもケアしなくてはならない。4人で計32ゴール、リーグトップタイの得点力を誇る横浜FCを相手に、岐阜の守備陣がしっかりとブロックを作り、まずは無得点に抑える姿を見せて欲しい。また、横浜には“キング・カズ”こと#11三浦知良が長く在籍し、昨季からは#35松井大輔が加入しているが、今夏には磐田から#46中村俊輔が移籍した。経験豊富な元日本代表経験者が揃っているが、岐阜にも元日本代表の#11前田遼一や元NZ代表の#10ライアン、元ガボン代表の#8フレデリックなどが揃っている。そして、岐阜の若手選手たちには、横浜FCのベテラン選手たちを圧倒する姿を見せてほしい。

横浜FCとの通算対戦成績は、岐阜の7勝3分15敗・27得点39失点と、大きく負け越している。ホーム戦でも4勝9敗・15得点20失点と分が悪く、勝利したのは2016シーズンにまで遡ることとなる。しかし、その勝利は、最下位からホーム戦を3連勝してJ2残留を決めた、その2戦目の勝利だったことを思いだして欲しい。

苦しい状況が続いているが、そんな時こそ、僕らサポーターには前向きになって応援する姿勢が求められる。ともすれば消極的になってしまう選手たちを叱咤激励し、その背中を押し、そして最後まで走り続けるための力となるような、そんな声援と拍手を最後まで送り続けよう。選手たちも、そんな僕らの姿勢に答えてくれるはずだ。(ささたく)

【第31節】岐阜 0-0 栃木

●正に“裏・天王山”、6ポイントマッチの重要な直接対決。ビッグフラッグ掲出、そして今シーズン初となる、ゴール裏サポーターが肩を組んで“誇り胸に”のチャント。絶対に負けられない戦いだっている、僕らの気持ちは十二分に選手たちに伝わったと思う。思うんだけどなあ……（溜息）。

両チームとも、『まずは先制点を奪われぬように』という意識が高かった。特に、ウチの守備ブロックは効果的に機能していたと思う。だけど、守りへの意識が強過ぎて、攻撃への切り替えの速さや、人数の掛け方が薄くなってしまい、厚みのある攻撃ができない。あるいは、サイドにボールを振り続けて栃木DFの中央が薄くなっているのに、守備ブロックが崩れることを心配して、中央突破ではなく再びサイド攻撃を選んでいるように感じる場面が何度かあった。サイド攻撃をメインにするのは良いけれど、『それだけ』じゃ対策されやすい。時には中央を攻める必要があるのは、当然わかっていると

思うんだけどなあ……（溜息）。スコアレスドロー。勝ち点1と積み上げたのだから、僕は“負けに等しい結果”とまでは思わないけれど、それでも、勝利とは雲泥の差であることは間違いない。だけど、まだまだ今シーズンは残されている。次こそ勝利を！（ささたく）

●誰もが待ち望んでいた瞬間、渴望していた結果は得られなかった。今はただ、それだけが口惜しい。

久しぶりのビッグ・フラッグ。ここぞと言う時の『誇り胸に』と肩組み。最高の雰囲気作りが出来たと思う。いろいろな準備をしてくれた方々に心から感謝を表したい。

だが、結果が出なければ全てが報われない。勝たなければいけない試合だった。残留の為には、少なくとも2つ順位を上げなければならない。その為には絶対勝たなければいけない試合だった。あらゆる面でキツくなってきた、というのが実感だ。とはいえ、試合の中での決定機は前半の一度きりだったような気がする。39番のスライディングに、位置は違うがジョーホルバルのVゴールを思い出していたくらいには昭和……、いや、アレは平成の話だったか。後半のバホスには期待が膨らんだけれども、そこまでで終了してしまうのが現状を表していたのかもしれない。

そんなモヤモヤ感に覆われたウチに対して、栃木の潔さ、腹の括りっぷりには恐れ入った。前半からリスタートはゴール前への放り込み。もう、何もかもかなぐり捨てて愚直に蹴り込む様に執念を感じた。しかし、腹立つくらい邪魔な存在だったよ、栃木の30番。

しかし、それでも勝ち点を積み上げることが出来た。栃木との勝ち点差も広がらなかったことは救いと言える。言うしかない。次からは栃木以上に厳しい相手が続くが、もはや四の五の言ってる場合じゃない。どこが相手でも勝つ。次こそ勝とう！（ぐん）

●まだJ2残留ラインが確定していない（J3次第ではJ2で21位になれば残留する可能性もある）ので、22位なのか21位なのかは大きな意味を持つ。そんな、最下位とそのすぐ上との直接対決。だったのだけど。

岐阜も栃木も決定機の少ない膠着戦になってしまった。岐阜の決定機はフレデリックが精密に狙って出したファーへのパスを走りこんだ馬場が合わせるも噴かしてしまったシーンで、栃木は右から崩されて最後は正面で西谷がシュートを噴かしたシーン。憶えている限り、これだけ。後半、バホスが投入されてサバンナを駆ける野性の肉食獣のごとくボールを追ったシーンにお客さんは大いに湧いたけれど、そこから決定機につながることはなかった。ラストプレーの正面からのFKもバホスが上にはずして終了。岐阜と同様に勝たなければいけないはずの栃木がなぜか試合を閉じに来たこともあって、粛々と試合が終わってしまった感じはある。

腹は立たなかった。残念だった。とにかく残念だった。切った張ったの試合になるはず、ならなければならないはずの試

合なのに、残留のために必要な「残り試合」というリソースを1つ減らされてしまった。そんな気がして。（吉田鑄造）

【第32節】岡山 2-0 岐阜

●3連休の初日、土曜ナイターという事もあり、多くの岐阜サポが駆け付けたアウェイ・Cスタ。少し前までは負け知らずのスタジアムだったんだけど、最近は逆に勝てていないスタジアム。今度こそは勝ちたい…そう思っていたサポも多かったはずだ。

そして、試合は序盤から岐阜のペース。岡山はボールを支配するけれど、岐阜の守備ブロックが効果的に機能して、相手にボールを回させる時間が続く。何度かチャンスも生まれ、『これは調子良いかも…』と思ったその時が、やっぱり危険な時間帯なんですね、サッカーの神様は厳しいです（溜息）。岡山の#14上田康太がゴール前に出した浮き球に、それまで全く目立たなかった#9イ・ヨンジェがワンタッチで流し込んで先制点。岐阜の両CBの中間に入り込んでできた、一瞬の間。これを決めてしまうのが、J2得点ランキング上位の選手の実力、というヤツなのだろう。

後半になるとすぐ、岐阜は#8フレデリック、#29バホスそして#33ミシャエルを次々と投入…おいおい、『外国人頼みの何とやら』ってヤツですか（苦笑）。しかも、#5川西翔太がアンカーの位置に下がり…えーと、これはサッカーと言うよりも、アメフトの“ショットガン・フォーメーション”ですね？……とはいえ、これが機能するからサッカーは不思議でして（苦笑）。何度も岡山のゴール前に迫る岐阜の選手たち。特に、#31宮本航汰がゴール前に飛び込んで放ったヘディングや、FKからの#50當間建文のプレーは、迫力があつたし入ったと思った。だけど、あれが何故か決まらないのが現状のウチを象徴しているのだろうし、その後に岡山の#19仲間隼斗が撃ったミドルが入ってしまうのが、2連勝中の岡山の好調さを象徴しているような思いがした。結局、試合は0-2。岡山のシュートはわずか4本。出来が良くなかった岡山ただけに、勝てそうだったし、勝ちたかった。少しの実力差が、大きな結果の差になってしまった、そんな悔しい敗戦だった。（ささたく）

●懸命に戦ったが0-2。点を取らなければ勝てない。そして、岡山は点が取れる武器を持っていた。

失点は全て14番から。ピンポイントのお膳立てをしてもらった得点者は、余裕を持って枠内に蹴り込むだけ。まあ、2点目はバーに当たってのゴールだったが、それでも同じようにバーに当たっても枠内に入らないウチのシュートとの違いは、余裕があるかどうか。そんな気がしてならない。狙いすましてのシュートと、ただ必死になって当てたシュートの違い。岡山は前節をハイライトで見ただけど、点差ほど楽に勝つたようには見えなかった。それでも3点取った。点の取り方を確立してるんだな、というのが試合後の感想。それが悔しくてたまらない。当たり前だけど、得点出来なきゃ勝てない。何が何でも点を取る。絶対勝つ！2試合続けてのアウェイだけど、今度こそやりきろう！（ぐん）

【第33節】水戸 1-0 岐阜

●久しぶりのデーゲーム開催、しかもアウェイ遠征となると、出発時間の感覚が狂ってしまって大変ですね（苦笑）。さて、現地はそれほど暑くなかったのだけれど、台風17号の影響なのか、非常に強い風がずっと吹いているKスタ。元々、アウェイスタンドが芝生でピッチとの高低差も少なく、かつビジョンはアウェイ側に置いてあるから試合が非常に見にくい陸上競技場。これで強風なんて、どんなアウェイの洗礼なのかと（苦笑）。しかも前半は岐阜が風下で、その強風に苦しめられる。上空は更に強い風が吹いているらしく、ハイボールが予想以

上に曲がり、流される。その為、前線に精度の高いボールが供給できない。しかも、練習施設『アツマーレ』で鍛えた水戸の選手たちのプレスが素早く厳しい。ボールをキープできないか、あるいはプレスと風でパスミスを繰り返す岐阜の選手たち。ほとんどセカンドボールは水戸に渡り、攻撃を繰り返される。ただ、ホームであるはずの水戸の選手たちも、この強風には慣れていなかった様で（苦笑）、効果的な攻撃ができていた訳ではなかった。なのに、我慢しきれなかったと言うべきか… # 2 阿部正紀の不用意なバックパスを奪われての失点。水戸の素早いプレスで前線の味方へのパスコースが切られていたためだとは思ひ、他の選手のフォローも悪かったから、阿部ちゃんだけを責める訳にはいかないと思うけど…非常に勿体ない失点シーンだった。で、後半になれば風上に立つのだから、今度はウチが攻撃する番……で、確かに攻勢には転じたのだけれど、水戸の選手たちの方が動きが速い。岐阜の主な攻撃はボールを両サイドに振って、コーナー手前まで侵入…までは行くのだけれど、そのエリアで相手に蓋をされて、また後ろに戻す……そんな動きを何度も繰り返すことに。それに、これだけ強い風では精度の高いクロスなんて期待できないんだから、中央からゴール前への“縦ポン”や、コース変化を期待しての思い切ったミドルの方が、まだゴールの可能性がするような気がした。こういったところが、若い選手が多い、ウチの経験値の少なさという所なんだろうか……（溜息）。前半に # 5 川西翔太が負傷交替したのも痛かった。そうでなくても現在は“戦術は川西”なので、点を獲る役目を誰が果たすのか、不明確になってしまったのかもしれない。岐阜が得点する雰囲気、全然しなかったもんなあ……（溜息）。

後半は何回か水戸にも決定機があったけれど、そこは岐阜がゴールを許さなかったというか、水戸が外してくれたというか（苦笑）。結局、あの1失点が大きく響いたスコアでの敗戦にはなったけれど、その結果以上に、両チームの戦力差が浮き彫りになってしまった試合内容だったと思う。けれど、下を向いている時間はない。次の試合に向けて、選手たちには反省すべきは反省し、改善すべきは改善し、全力を尽くして欲しい。（ささたく）

●今季初めてのDAZN観戦。それでも、レプユニ、タオマフという、いつものスタイルでリアルタイムの声援を心の中で送り続けたんだけど、残念な敗戦。確かにピンチは山ほどあったけど、結果として失点はアノ1点だけだけに、本当にもつたいない敗戦だった。でも、あんなオウンゴールと評してもいいくらいのミスをしでかしたらどうしようもない。逆にミスで負けたんならしょうがない。今さら悔やんでも取り返しはつかない。じゃあ、次の試合からはちゃんとやる。それくらいの開き直りをしてもいい。ただ、判断は冷静に。ピッチのコンディションや周囲の状況、そして戦況を常に頭に入れて戦わないとね。それが出来ないなら、試合に出場すべきじゃない。そこは肝に銘じて欲しい。

とにかく、次は久しぶりの長良川。得点も勝利も久しく見えない。このままじゃ終われないんだ。今度こそ、全員で凱歌を上げよう。（ぐん、）

9/27 時点の J 3 順位表。

1 群馬	44p +21	45	24	残り 11	★ J 2 ライセンス
2 熊本	44p +8	33	25	残り 11	★ J 2 ライセンス

3 北九州	43p +14	33	19	残り 11	★ J 2 ライセンス
4 藤枝	42p +9	31	22	残り 11	
5 富山	35p +9	32	23	残り 11	★ J 2 ライセンス
6 鳥取	35p -3	36	39	残り 11	★ J 2 ライセンス

9/27 に来季の J 1、J 2 ライセンスが発表になり、藤枝 M Y F C は J 2 ライセンスを取得できませんでした。従って、今季の藤枝の最終順位が 2 位以内の場合、J 2 の J 3 降格枠が 1 になります（J 2 の 21 位は残留）。

『岐大通』では F C 岐阜の J 2 残留が決まるまで、J 3 情報を掲載していきます。（編集人：吉田鑄造）

